

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和6年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月3日(木) 13:30 ~ 15:45  
\* 14:45 ~ 2年理数科「理数探究」授業参観
- 3 開催場所 吉城高等学校 会議室
- 4 参加者 会長 沖畑 康子  
(敬称略) 委員 柴田 駿一 本校同窓会会長  
石橋 祥二 NPO 飛騨アカデミー 事務局長  
中村 健吾 飛騨青年会議所理事長  
牧田 美奈 R5本校育友会役員
- 学校側 野中 賀雄 校長  
下嶋 和長 教頭  
田本 里美 事務長  
小澤 耕 教務主任  
河野 和代 生徒指導主事  
井田 和実 進路指導主事  
桐谷 直嗣 特別活動部長  
近藤 恵子 キャリア推進部長  
門前 雅美 理数科主任

## 5 会議の概要(協議事項)

## (1) 学校評価と各分掌の取組について

※各分掌長より前期の取組と学校評価の分析、後期の実践について説明。

今年度学校評価アンケートをFormsで実施した。生徒、保護者とも全体的に大きく評価が下がった。

意見1: スクール・ポリシーの認知や広報活動の肯定的意見はそれぞれ22.7%、36.6%減少し衝撃的である。何か具体的に対策を立てる必要がある。

意見2: 教育目標やスクール・ポリシーは担任が一度説明をただけで浸透するものではない。生徒同士が話し合ったり、考えたりする機会を設ける時間がなければ自分のものになっていかない。今回はスマートフォンで簡単に答えられることで、本音が出たのではないか。生徒主体の活動を教育目標につなげて考える機会はないのか?

回答⇒年度の初めに本校で身に付けさせたい3つの力(「見つける力」、「伝える力」、「解決する力」)に関する評価基準について現状を自己評価させ、2月に同じ項目で再度自己評価させ振り返らせることで成長の度合をはかっている。

意見 3：7月の学校評価アンケートの結果は新年度が始まったばかりのもので、年度の総合的な評価ではない。1年後の結果が学校評価となる。先生方が課題を見つけ出して取り組んだ1年後の成果が見たい。再度アンケートを実施する予定はあるか。

回 答⇒再度アンケートを実施することはできる。2月の第3回運営協議会に7月と比較した結果を出せるように再度12月に学校評価アンケートを実施する。

意見 4：社会人が会社の経営方針を答えられないのと同様に、高校生が教育目標やスクール・ポリシーを知らないのは想像できる。もっと分かりやすいものでよいのではないか。また、ホームページにいろいろ掲載しても、今はほぼ見ない。宣伝をするならInstagramのほうが良い。Instagramの発信は生徒がしているのか？

回 答⇒吉城高校Instagramは主に教員が発信している。生徒については誰でも投稿ができるわけではなく、生徒会の生徒が発信している。

意見 5：アンケートには自分も（保護者として）回答した。自分は役員として学校に足を運ぶことが他の保護者より多いと思うが、それでも質問の内容について現状が分からず、どっちなの？という答えにくい質問がある。保護者は三者懇談ならともかく、高校生の授業参観のために仕事を休むことは少ないだろうし、高校生にもなると親に学校に来るなという子もいる。このような理由で、保護者アンケートでは「分からない」が増えるのではないか。Instagramで授業ではこんなことをしているとか動画で流すなどの工夫は必要だと思う。

意見 6：広報活動にはInstagramをフルに活用するのはよい。

## (2) スクール・ミッションについて

学校より：前回の協議会での委員の意見を集約し、本校スクール・ポリシーや、第4次岐阜県教育振興基本計画と照らし合わせて考えた職員案がこれである。

**住みよい社会づくりのために自ら行動できる人材を輩出する学校として  
飛騨地域を舞台に、協働的かつ探究的な学びを通して  
未来を創る基礎となり、社会で生きる学力と実践力を育成する学校**

意見 1：私たちの意見も取り入れられ、地元の願いも入れられている。とても分かりやすくよくまとめられている。

意見 2：基本的に言葉として、よく整理されていると思う。ただ、協働的というのが苦手な人もいる。そういう人もいることを先生の心の中にとどめておいてほしい。

意見 3：スッキリとしている。探究的な学びが特徴的な学校にしたい。しかし、まだまだ認知されていない。吉城高校「YCK」の認知度を上げなければならない。

意見 4：前回の協議会の様々な意見が集約されており、自分の将来と照らし合わせて、これなら生徒に分かりやすいのではないかと思う。

## (3) 授業見学「理数科 理数探究」を終えて（意見）

意見 1：ユニークな研究をしている。2月の発表が楽しみである。

意見 2：多種多様なテーマで研究をしている。発表の仕方については練習が必要である。

意見 3：理数科の特性を発揮し、科学的、数学的に課題に挑んでいる。2月が楽しみである。

意見 4：テーマの内容が身近なもので興味がわく内容だ。地域の人々から助言をもらうことも考えるとよい。

## 6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会において、各分掌長から前期の取組と学校評価分析、及び後期の取組予定について説明した。参加の委員から多くの助言や意見を得た。学校評価アンケートについては12月に再度実施することが決定した。スクール・ミッションの学校案については、委員から承認を得た。第3回学校運営協議会は、2月7日（金）理数探究・YCK発表会後に開催予定である。